

---

# アーセラーナ・フォルティアは歌わない

新巻鮭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

アーセラーナ・フォーマルティアは歌わない

### 【Nコード】

N8793X

### 【作者名】

新巻鮭

### 【あらすじ】

現代とは違う科学の発展を遂げた世界。

アーセラーナ・フォーマルティアと呼ばれる巨大建造物が空に浮かぶ世界。

これは錆びついた運命の歯車に巻き込まれた、ある少年の物語……。

## 齒車を回す者

己おれは……己おれは 死にかけていた。

まだ死んではない。けれど死んだも同然だ。

己おれは傷を負っていた。

腹に、背中まで貫通するドデカい傷だ。

腰から下はそれこそ文字通り皮一枚で繋がっているだけだろう。

血は己おれの身体を見限ったように、己おれの身体から逃げ出すように、だくだくと流れだしてゆく。

まだ意識があるのが不思議でならない。まだ生きているのが不思議でならない。

己おれは目を開けてみた。

とてもとても綺麗な曇った夜空だ。星一つはおるか、月の灯りすら見えやしない。

己おれは首を横に捻ってみた。

背の低い草が飽きるほどたくさん並んでいた。

どちらも冥土の土産にするにはあまりに貧相でつまらない景色だ。

己おれはもう一度目を閉じた。

こんな体についている目なんて、どの道必要ない。もう瞼を開くことは無いだろう。

かと思った矢先に、何かの気配が己れに近づいてきた。  
空間を自分だけで埋め尽くさんと息巻く、強烈に巨大な存在だ。

仕方なく己れはもう一度目を開けることにした。

この存在、己れは知っていた。

知識としてだけ 知っていた。

アーセラーナ・フォーマルティア

己れも見るのは初めてだ。

長く、永く、解明され得なかった。そして今なお謎を多く残す、  
巨大建造物。

空に浮かぶもの、空を泳ぐもの、空を管理するもの。

諸説あるが、結局のところ、空に存在する意味不明な物体、とし  
か認識されていない。

人それぞれにアーセラーナ・フォーマルティアに対する認識がある  
のだ。

あるものは空に浮かぶ方舟だ、と。

またあるものは空にそびえる城だ、と。

己れは、空を泳ぐ、鋼の魚だ、と思った。

## 歯車を回す者（後書き）

勢いで作ってしまった……反省はしている。

この続きを書くことは果たしてできるのか……。  
期待せず待つよろし、ですよ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8793x/>

---

アーセラナ・フォーマルティアは歌わない

2011年10月24日02時01分発行